

ケータイ・ネット問題に対応して

大阪府立春日丘高等学校教諭
吉村 剛志

ケータイやネットに関わる問題は、教員が知らない間に、色々起きているのではないだろうか？『IT危機一髪!』を作成したり、2008年度に大阪府立学校で実施したアンケート結果や、日々取り組んでいることから、教科「情報」の先生方に知っていただきたいことをまとめたい。

1. ケータイ問題に取り組むきっかけ

本校に赴任して、最初の年にCEC(財団法人コンピュータ教育開発センター)の産業協力情報授業で、「『もしもし』はなぜ届くのか? 携帯電話の謎に迫る!」という題で、NTTドコモの方を講師に迎えて授業を実施した。¹⁾ この頃からケータイに関する諸問題に関心を持つようになった。

その後、大阪府立学校人権教育研究会(府立人研)で、ケータイやネットに関する問題が提起されたこともあり、「情報と人権」チームが立ち上げられ、全大阪府立高校を対象にアンケートを取り、分析していくこととなった。この際に、大阪府高等学校情報教育研究会のモラル部会に協力の依頼があり、私が府立松原高校の浜崎真吉教諭と共に参加し、2007年に『IT危機一髪!～掲示板・ブログ・メール匿名書き込み対応マニュアル～』(図1)を発刊した。²⁾

この中では、05年度末に実施したケータイアンケートの分析結果からわかること、ケータイと法律(大阪弁護士協会の森本志磨子弁護士の全面的な協

力を得た)、事前啓発について、保護者向けプリント、LHR用プリント(事態発生 その時学校は)、対応要領・啓發文書・生徒集会などの文例、などを掲載した。この『IT危機一髪!』は各方面で好評で、現在残部がない。そこで、府立人研の「情報と人権」チームでは『IT危機一髪! II(仮称)』の発刊を目指し、現在作業中である。

2. ケータイアンケートの実施

『IT危機一髪!～掲示板・ブログ・メール匿名書き込み対応マニュアル～』発刊後、「情報と人権」チームでは、ネットやケータイの情勢が変わったこともあり、もう一度ケータイアンケートを取ることにした。その際、府立高槻北高校の芝田仁先生が中心となり開発され、大阪府高等学校情報教育研究会が配布しているEXCELのマクロである「GR」を使い、個々のデータを集計できるように計画した。今回のアンケートに使用した、GRの用紙は図2に示す。GRは自由にアンケート項目を設計し、マクロで集約することができるので、アンケート集計などで大変役に立つ。

アンケートを実施するに当たり、質問項目を何度も検討し、大阪府の府立高校を中心とした諸学校、大阪市立の高等学校、大阪の私学の高等学校、の1年・2年各1クラスにアンケートをお願いし、集計には約1万件のデータを集めた。このデータは、大阪府の高校生の実態をほぼ反映しているのではないかと考えている。

質問項目は、全部で56項目で、前半の1～7番でケータイを持っているかどうかや、いつから持ち始めたのか、8から44番でケータイの利用実態、46番から56番で、ホームページ(自分のWebページ)やブログ・プロフを持っている生徒に対してアンケー

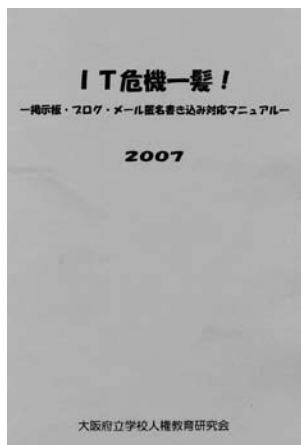


図1 『IT危機一髪!』

ケータイアンケート 回答用紙 (大阪府立人研)

1 2 3 4 5 6 7

8 9 10 11 12

13 14 15 16 17 18 19 20

21 22 23 24 25

26 27 28 29 30

31 32 33 34 35

36 37 38 39 40

41 42 43 44 45

46 47 48 49 50 51

52 53 54

ご協力ありがとうございました

※回答内容は、しつこくフォローしていきません。個人情報保護法に基づき、調査結果は匿名で公表いたします。詳しくは電話にてお問い合わせください。
 ※調査結果は、調査結果を公表し、個人情報は取り除いて提供いたします。
 ※もし、誤りや重複などありましたら、お知らせください。

○正しいマーク ○間違いのマーク

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本郵政株式会社
 〒590-0001 大阪府堺市東区東山1-1-1 大阪府立人研

図2 GRによるケータイアンケート用紙

トをおこなった。

3. ケータイアンケートの結果について

以下の内容は、2011年8月6日の全国高等学校情報教育研究会で発表した内容³⁾に加筆したものである。

この際実施したアンケートの結果を紹介する。ケータイを持っている生徒は94.1%、2台以上持っている生徒は、14.8%となっている。ケータイを持ち始めたのは、中1で23.4%、次に高1で20.2%となっている。小学校6年生までに持ち始めた生徒は、25.0%で1/4の生徒が小学校時代から持ち始めている。中学校で持ち始める生徒が48.1%、義務制の諸学校でケータイを持ち出す生徒は73.1%となっており、3/4となっている。以前義務制の先生方に、ケータイについてお話をした際、大変深刻な実態になっているとの報告が多くあった。現在では、ケータイの負の側面が知られるようになり、ケータイを持ち出す年齢が上がってきたようである。本校で持続的に実施している調査では、高校1年生から初めてケータイを持ち出す層が一番多くなってきている。

ケータイを何に使うのかでは、一番多いのは、メールで88.8%、次に通話となっている。その差は、17.4ポイントになっている。ケータイの主な使用目的で45%以上の項目は、情報検索・カメラ・目覚まし・音楽プレーヤーなどがある。ケータイを多機能に利用している実態がわかる。

ケータイ代は、63.7%が保護者が払っており、自分で払っている生徒が17.0%となっている。ケータイ代は、5千円から1万円が56.4%となり、この範囲の生徒が一番多く、75.7%が1万円以下であった。現在ではパケット定額制が普及していることもあり、1万円以下の生徒がほとんどを占めている。通話を、1日に1~4回以下が57.6%、ほとんどかけないが、25.1%となっており、この結果からも、ケータイを電話としてではなく、インターネット端末として使っていることがわかる。今後、ケータイがスマホ(スマートフォン:iPhoneやアンドロイドOSが入ったケータイ端末)になっていくことで、この傾向は加速していくと考えるのが自然であろう。

次に個人情報の面から見ていく。自分以外のサイトで個人情報を書き込まれたものとしては、映像や写真が17.2%、名前が13.6%。自分のサイトに掲載した他人の個人情報では、映像や写真が12.3%、名前が10.2%となっている。プリクラで撮影した画像を、自由にサイトに転送したり、赤外線でケータイに受けたりすることができるため、気軽に自分のサイトに載せることがあるようである。ホームページなどのサイトに他人の写真を載せる際、サイトを持っている生徒の中での割合は、必ず許可を取っているのが20.9%、時々許可をもらうが20.2%、許可をもらわないが54.6%となっており、個人情報を載せる際に承諾をもらう必要があることを、生徒たちに伝える必要があると考える。サイトのプロフィール(自分のプロフィールを掲載する部分)に載せていることでは、プロフィールを載せている生徒の中での割合は、性別84.5%、誕生日73.9%、星座68.4%、下の名前63.0%、ニックネーム57.8%、学校名50.8%、上の名前39.9%、部活31.8%、身長体重27.6%、学年や組26.7%、自分の写真24.3%、家族のこと22.5%、住所まで掲載しているのは、11.9%と少ないが、ホームページを持っている生徒は、個人情報を気軽に掲載する傾向があることを理解いただけると思う。最近ではSNSなどのページを高校生が持つことが多く

なり、今まで以上に多くの個人情報を掲載する可能性があり、どのような問題点があるのかについて、周知する必要がある。

次に、メールの返信に関してである。自分の題したメールに対して返信メールがくるまでどれくらいまでが不満を感じるかでは、1時間までが21.5%、1時間程度が10.9%、半日程度が13.8%、気にしないが47.3%となっている。返信するように心がけている時間は10分以内が42.6%、30分～1時間が21.8%で、心がけていないが25.7%である。ほとんどの生徒が1時間程度で返そうと努力していることが伺える。これで、若者が煩雑にケータイの画面を見る理由がわかる。

ネットやケータイで知り合った人とリアルで会ったことのある生徒は18.8%もあり、ネットで繋がっている部分大きいのだと感じる。会った理由で最も多いのは、同じ趣味を求めてと、友人を求めてであった。

フィルタリングをしているのは19.7%であり、少数派であったが、現在では高校生までの生徒にフィルタリングの義務化が言われているので、本校でも過半の生徒がフィルタリングをしている。

次に、サイトやケータイのメールで、いやな書き込みなどをされた経験のあるのは14.3%で、女子で20%、男子で10%と、女子が圧倒的にいやな思いをしている。しかし、いやなことを書き込まれた生徒の内44.4%が悪口を書き込んでおり、悪口の連鎖が見られる。

最後に、ネットやケータイでいやなことや被害にあった場合、誰に相談するかでは、家族や友人に相談するが46.7%、放っておくが26.4%、わからないが14.6%、警察に相談が3.8%、学校に相談するが1.3%と、学校が相談相手として認知されていない(相手にされていない?)現状が伺える。

以上のアンケート結果や、現在急速に進むケータイのスマホ化を考えれば、情報で生徒たちに多くのことを教育していく必要があることを理解いただけるであろう。

4. 何を教えるべきなのか

ネットやケータイの使い方について、何を教えるべきなのか、ということに関して、以下にいくつかの点を挙げておきたい。

- ・発信者は特定できる。
 - ・ケータイのサイトとネットは同じもの。
 - ・インターネットは世界に一つで、繋がっている。
 - ・インターネット上に上げた情報は、全世界の人が見る。
 - ・ネットに書き込んだ情報は、いつまでも残る。
 - ・ネットに書き込んだことは、自分に返ってくる。
 - ・ネット上には正しい情報も、そうでない情報も、同じように流れている。
 - ・ネットやケータイの安全性について、多くのサイトで啓蒙がおこなわれている。
- 以上のようなことを伝えていきたい。

5. 発信者は特定できる

発信者の特定を最初の例として挙げておきたい。まず、ケータイや、PCからあらかじめ校内の自分宛、あるいは特定のアドレス宛に、違う時間・場所で複数のメールを送らせておく。

授業の中で、メーラーでメールを見る。特定のメールを選び、ヘッダーを表示させる。そうすると、Message-Id: というものが出てきて、Message-Id: <20110920075426.z0000.***@△.ne.jp> (※はアドレスの@より左側、△は会社名など)と表示される。送ったメールには、特定の番号が、ケータイ会社(キャリア)から割り振られることを理解させる。次に「Received: from」という部分を探し、「Received: from ◎◎.△.ne.jp (◎◎.△.ne.jp [124.211.23.3])」という部分があり、[124.211.23.3]が発信元のIPアドレスとなる。

次にブラウザの検索サイトで、「ANSI Whois」⁴⁾で検索し、サイトの画面を表示させる。サイトの上部に枠があるので、先ほどのIPアドレスを入力し、検索する。そうすると、[ネットワーク情報] (どのプロバイダーか)や上位情報(どこと上位で繋がっているか)、担当者の名前、担当者のメールアドレスなどが表示される。かなり詳しいことまで表示されるので、ご覧いただきたい。このようにメールを送付した場合、ヘッダーに発信者の情報が残り、ケータイやネットの会社では、発信元の機器を特定できることを理解させる必要がある。被害にあった場合には、保護者や学校関係者が付き添い、警察署に届けることで、相手を特定することができる。いやな目にあった場合、それをすぐに消してしまうのでは

なく、デジカメで撮影し、責任能力のある大人が、2人以上で確認する(署名する)ことで証拠能力があるので確認してもらいたい。できれば、その現物を警察署に持って行く対応が早い。また、ブログなどに書き込まれた場合にも、同様の処理で対応してもらえる。一部2Chなど、対応が悪いサイトもあるのでご注意ください。

被害にあった生徒は、多くの書き込みなどから大変不気味に思い不安になることがよくある。情報発信元は特定できるのだということ、情報で暴力をふるわれるのではないことを理解させると共に、学校全体で一丸となった対応が必要である。

学校として被害を受けた場合、私学の場合は学校から、公立の場合には教育委員会から、プロバイダーに削除依頼が可能なのでお知りおきいただきたい。

6. ネットやケータイでの発言は責任を持って

次に、ネットワークやインターネットのことは授業で触れられていると思うが、次の点をしっかりと理解させるようお願いしたい。ネットワークは世界中に繋がっており、ケータイやネットでの発言は、友人に言ったということだけではなく、消えることなく全世界の人が見ているということ。友だちとグチを言い合ったり、ふざけて発言したりおちよったりするところを、全世界の人に公開していることになるのだということ。ネットでの発言は「悪ふざけやった」では済まないことを理解させたい。

発信したものが消えないという点では、校内で割合有名で長く活躍されている(部活動や教科の研究会や趣味の世界で)先生に許可をいただき、Webの検索サイトで、その先生の名前で検索する。するとかなり古いものから新しいものまでその先生の関与されたことがわかる。新しいものが上位に来るというわけではなく、興味を持たれたものが上位に来るので、古いものがなくなっていくわけではないことを容易に理解させることができる。

一度ネットに出て、多くの人に興味を持たれると、大元のサイトの記事や映像を削除しても、インターネットの世界では残っていく。そうなると削除することは容易ではない。昔発言したりアップした写真などを検索していくことで、その人物の人となりや容易に調べていくことができる。就職などの際に、自分のFacebookなどのSNSやTwitterなどでの発

言を集められ、どのような発言をしてきたのかを調べていくことが容易に可能となる。この際いくつかのキーワード、たとえばニックネームや趣味や経歴などから、過去の色々な情報を検索されるのだということを理解させたい。ネット上にアップした発言や写真は、落語に出てくる、地獄の門で、閻魔大王から裁きを受ける、「過去帳」と同じようなことになるので、ネット上での発言はこれでよいのかを吟味し、気軽に行わないように注意喚起をお願いしたい。

SNSやブログなどで、「炎上」「祭り」などの状態になっているサイトを探し、それを紹介することも効果的である。

ケータイなどのサイトは、以前はケータイでしか見ることができなかったが、スマホの普及と共に、PC上でも閲覧可能となっているサイトが増えてきた。「学校の愛称+ランキング」などで、生徒たちが作っているサイトをご覧になることをお勧めする。

7. 参考にできるサイト

現在多くの団体から、青少年のネット使用に関する啓発のサイトがある。そのいくつかを紹介する。我々のグループのメンバーが関わった「ケータイのええとこ・あかんとこ」⁵⁾、iPhoneのフィルタリングに尽力した、総務省のインターネットトラブル事例集ダウンロードページ⁶⁾(対応策が具体的)、CECの「ネット社会の歩き方(高校編)」⁷⁾、EMAの啓発・教育プログラム⁸⁾。警察庁のサイバー犯罪対策サイト⁹⁾には、ネットに関わる検挙状況や、情報セキュリティ対策ビデオへのリンクがあり、参考となる。また、ケータイ会社のサイトも参考にしたい。

参考文献・URL

- 1) CEC：産業協力情報授業
<http://www.cec.or.jp/e2a/sangyou/j/>
- 2) 大阪府立学校人権教育研究会『IT危機一髪！』2007年
- 3) 全国高等学校情報教育研究会 <http://www.zenkojoken.jp/>
※発表内容は http://www.zenkojoken.jp/?action=common_download_main&upload_id=509
- 4) ANSI Whois <http://whois.ansi.co.jp/>
- 5) <http://www.osaka-c.ed.jp/jinken/compass/pdf/compass2-2.pdf>
- 6) http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html
- 7) http://www.cec.or.jp/net-walk/index_kou.html
- 8) <http://www.ema.or.jp/education/index.html>
- 9) <http://www.npa.go.jp/cyber/index.html>